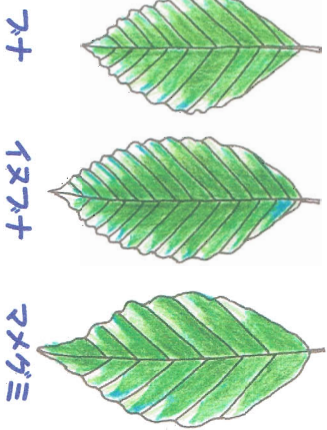


夏の塔/岳・丹沢山・蛭ヶ岳

百名山自然ガイド 丹沢

○フナノの葉は、ふちが波打っているのが持ちようです。また、中央の葉脈から左右に分れていく支脈の数は9本前後(7~11本)で、若い葉には、表にもうらにも白い毛が生えています。

○よく似たメヌフナノの葉は支脈の数が多く、10~14本あります。メヌグミの葉は先が細くつき出して、支脈の数は6前後のようです。



メヌグミは、7月頃にうす黄色の小さな花を咲かせます。長さ1cmくらいで、先が4つに分かれています。これは花びらではなく、がく筒(がくとう)と呼ばれるものです。

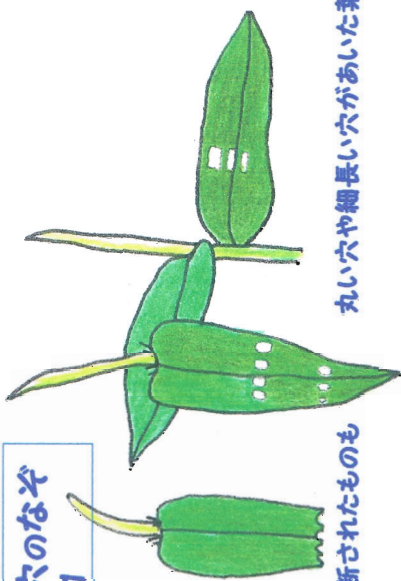


フナノの葉の見分け方

丹沢のフナノの林は今...

- 丹沢は、四季おりおり美しく姿を変えろるフナノの林で知られてきました。フナノは、冬になると木の葉を落としてしまいます。日本の落葉広葉樹の森を代表する木で、涼しい場所が好きなため、丹沢では、主に標高1000m以上の山頂部に生えています。
- しかし1970年代ころから、枯れてしまふ大木が目立ち始めました。人間の活動で生じた酸性雨や気温の上昇がフナノを弱めていることが疑われていますが、フナノバチという虫の子どもがたくさん発生して葉っぱを食べてしまふことも、追い打ちをかけています。
- フナノは、乾いた気候がにがてです。雪深い日本海側に大きな森を作っていますが、冬に乾く太平洋側では、少し無理をしている場所が多いようです。ざりざりのバランスがくずれたのかもれません。
- これから、フナノの若木が長い年月をかけて育ち、大木の林が再び復活してほしいものです。

ササの葉の穴のなぞ ヒント



穴が大きくて切断されたものも

丸い穴や細長い穴があいた葉が

- 尾根道を歩いていて、穴がきれいに並んであいているササの葉を見かけませんか。この穴は、どうしてあいているのでしょうか?
- けもの歯形にしては、横にまっすぐ並びすぎているので、人が道具でつけたものでもありません。白い点々が並んでいるだけのものもあります。13頁のヒント2を見る前に、ぜひ推理してみてください。



後のほうが
より黒い葉
の葉は

大きな葉っぱ

○丹沢の山頂部には、ササ原が広がっています。ササは、日本の気候になじんで、たくさんの種類に進化しました。

○ササの種類を見分けることはむずかしいのですが、丹沢の山頂部で見られるのは、ミヤマクマササカスズタケのようです。どちらも冬に葉のふちが白くなり、春になると、新しい緑の葉と交代します。

○葉のうら全体に細かい短い毛が生えているのがミヤマクマササですが、拡大してよく見ないとわからないかもしれません。スズタケの葉は幅が少し細めで、葉のうらの毛はありません。最近まで広い範囲に生えていましたが、シカに食べられたときの回復力が弱く、近年は枯れてしまうことも進みました。急速に分布がせばまっています。

○地下茎でつながったササ原は、土がけおられて山が荒れるのを防ぎます。しかし、他の草や若い木が育つじやまをし、枯れるときはいつせいに枯れてしまふ、という問題をかかえています。

オオバケイソウとマルバダケスキ

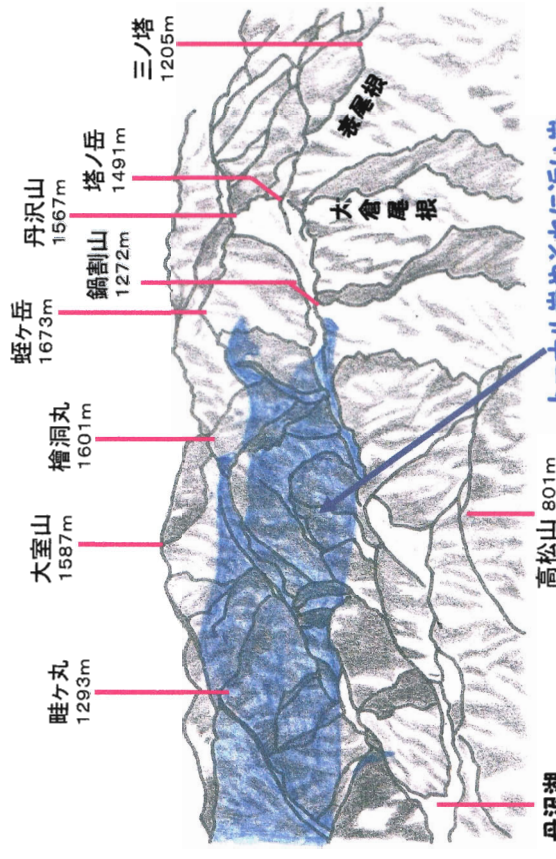
○春から夏にかけてのブナの林では、オオバケイソウとマルバダケスキの大きな葉が目立ちます。どちらも有害な物質を含み、シカが、食べるのを敬遠しているため、生える場所が広がっています。

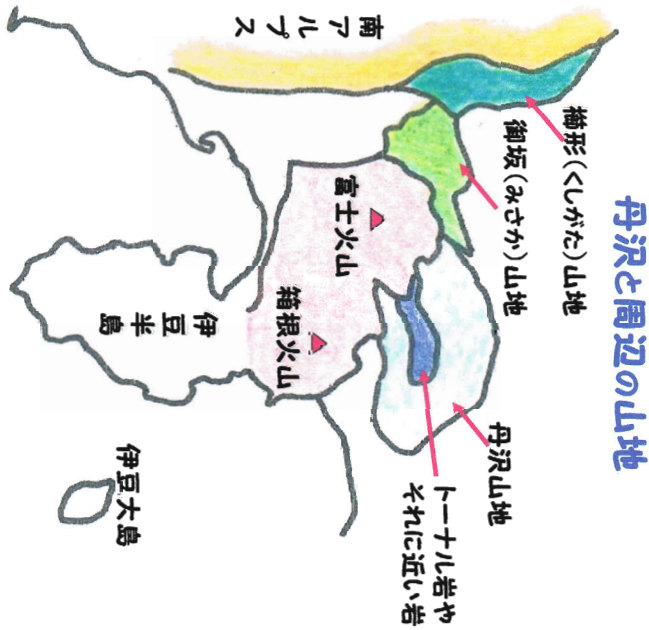
○オオバケイソウは、高山の草原に咲くコバケイソウよりもずっと大きく、花も加えると、人の背たけくらいになります。7月頃、まっすぐに伸びた茎の上部にたくさん白っぽい緑色の花を咲かせます。

○春先に芽を出して急速に育つオオバケイソウですが、木々の葉が茂って日陰になると、生長が止まります。花をつける株はごく一部で、それ以外は、皆茶色く枯れてしまいます。地下の根茎に栄養をたっぷりため込んで、次の春を待つこととなります。

○マルバダケスキも、春～夏にかけての日の光を受けて大きく育ち、8月頃に黄色い花を咲かせます。アサギマダラというチョウはその味つけが大好きで、有毒物質を、自分の身を守ることや、およめさんと呼ばれるためのフェロモンに作りに利用するそうです。

南から見た丹沢山地とトータル岩のおよその広がり(青く着色)





丹沢と周辺の山地

伊豆半島のしようつが生み出した？ 丹沢の山々

- 伊豆半島を含む地域をのせている岩盤は、昔はもつと南の海の中にあったと考えられています。それが少しずつ北へ動いてきて、今から100～200万年くらい前に、その先端が本州にぶつかってきました。その境目には、箱根や富士の火山が噴き出しました。
- 伊豆半島がしようつしてきた力を受けて、丹沢の山々が押し上げられ、今のような山地が生まれたと考えられています。
- ところが、丹沢山地をのせている岩盤もまた、南の海から北上してきたという考えも出てきました。500万年ほど前に本州にしようつした丹沢の岩盤は、やがて本州の一部になったらしいのです。
- もつと昔には、1200万年ほど前に榊形山地(くしがたさんち: 甲府の西にある山地)の岩盤が、900万年ほど前に御坂山地(みさかさんち: 富士山の北側にある山地)の岩盤が、それぞれ南から動いてきて本州に付け加わったらしい、とも考えられています。

丹沢山地の中心部にはトーナール岩

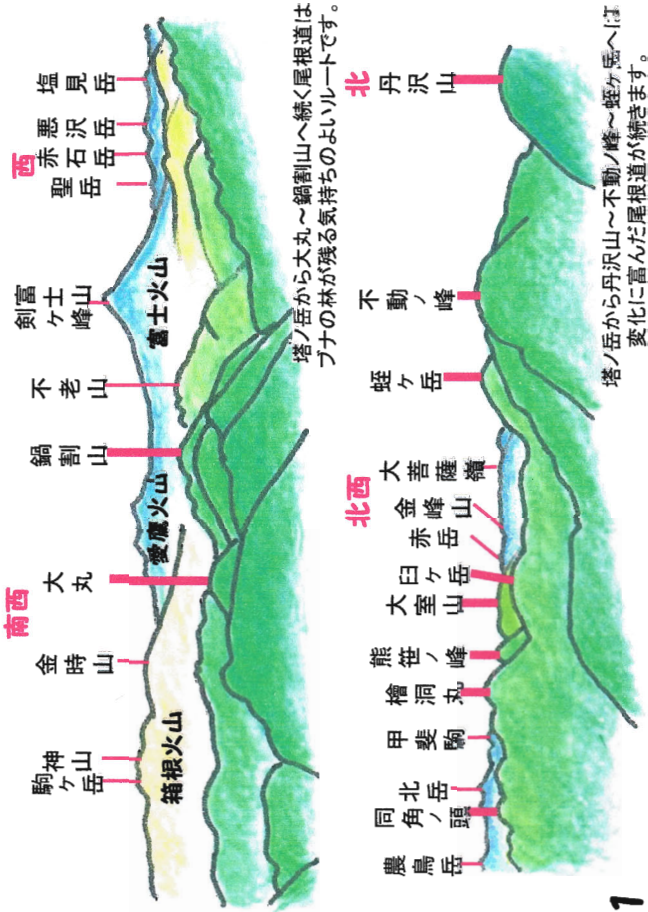
○丹沢山地の中心部に広がっているのは、「トーナール岩」という聞きなれない名前の岩やそれに近いものです。マグマが上がってきて、地中深くでゆっくり冷え固まった岩です。

○トーナール岩は、アルカリ長石という鉱物をほとんど含まないことが特徴で、その点は「石英せん緑岩」に似ています。以前はその名前前で呼ばれていましたが、正確に呼ばれることが増えました。少しだけ石英を含む石英せん緑岩より、もつと多く石英を含んでいます。

○トーナール岩は、檜洞丸(ひのきぼらまる)の西側斜面やもつと西の畦ヶ丸(あぜがまる)などの山をつづついています。しかしそれより、玄倉川(くろくらがわ)や中川川など、西丹沢の谷で広く見られます。

○塔ノ岳～丹沢山～蛭ヶ岳など、丹沢の高い所をつづついているのは、昔の海に噴き出した溶岩や火山灰、流れ込んだ砂や泥などが厚く積もってできた岩です。トーナール岩のマグマはそうした岩の下に入り込み、丹沢を押し上げて山地にする力のひとつになったようです。

塔ノ岳山頂からの展望



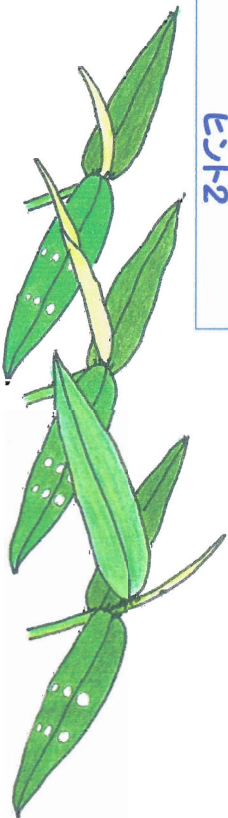
丹沢の青い岩

- 丹沢の岩は、青っぽいものや緑がかったものが目立ちます。
- 岩の色は、それに含まれる鉱物の色を反映していますが、大ざっぱにいうと、青や緑などの色は多くの場合、中に含まれている鉄分と酸素の結びつきが弱いことを示しています。
- これに対して、中に含まれる鉄分が酸素と強く結びついていると、多くの場合、赤、茶色、黄色などの色になります。鉄が赤くさびたと、きの色というわけです。
- 地球上で酸素がたくさんあるのは、空気中です。地上に噴き出して固まった火山の溶岩や、地表に顔を出して風化が進んだ岩は、酸素との結びつきが強くなります。一方、深い海の底や、地中深くでできた岩の酸素との結びつきは、弱いものになります。
- このように岩の色は、その岩がたどってきた歴史を考えるとき、手がかりの一要因になります。

7～8月の花



ササの葉の穴のなぞ



ササの葉は、このように芽を出して育ちます。

- ササの葉に穴をあけたのは、カやチヨウ、キリギリスの仲間などが疑われていますが、私たちはまだ確かめることができていません。子虫がかじったあとだと考える人が多いようですが、中の汁を吸うためにあけた穴と考える人や、お母さん虫が卵を生みこんだときの穴と考える人もいます。場所ごとの違いもありそうです。
- ササの葉は初め、くるくる巻きになって芽がのびてきます。穴が並んでいることがどう関係しているか、さらに考えてみてください。



左のアドレスのQRコードです

<https://yama3823.com/100meizan/tanzawa/index.html>

「百名山自然ガイド」は、山歩きを楽しむをいっそう大きくすることのお役に立たないかと考えながら、山の美しい自然をいつまでも大切にしていきたいと願う仲間で作成しています。丹沢では、四季それぞれに分けた案内を下記に掲載しました。機会がありましたら、別々の季節の丹沢もお訪ねください(https から https へ変更しました)。

なお、いろいろな思い違いもありそうです。間違いないときやご感想など、お寄せいただけると嬉しいです。 yama_3823 @ yama3823.com (メール送付のときは、添付ファイルはつけられないようにお願いできますでしょうか)

- 山では、ちよつとした不注意や判断ミスが事故につながります。安全を心がけて、余裕のある計画を立てましょう。特に夏は、雷雨が心配です。夏の午後は、早めに行動を切り上げましょう。
- ほんだの山で、登山届の提出が求められています。予定のコースや日程を、入山前に届けましょう。
- 動植物や岩石の採取等が禁じられている区域がたくさんあります。そんでない場合も、ありのままの自然を大切にしましょう。
- ごみの放置は、生態系に大きな影響を与えます。ごみは、各自で持ち帰りましょう。